

2017年6月19日

SUBARU「アイサイト」を大幅進化、新機能「ツーリングアシスト」を搭載

～最新の先進安全技術を採用し、渋滞時を含む全車速域で運転負荷を軽減～

- 新機能「ツーリングアシスト」が、高速道路の渋滞時を含む全車速域でアクセル・ブレーキ・ステアリングを自動制御することで安全運転を支援し、ドライバーの運転負荷を大幅に軽減*1
- 独自のステレオカメラ技術により、リアルワールドの幅広いシーンで安定した運転支援を実現
- 本年夏発表予定の新型「レヴォーグ」、「WRX S4」に「ツーリングアシスト」を全車標準装備
- 新型「レヴォーグ」、「WRX S4」には、「後退時自動ブレーキシステム」や「アイサイトセーフティプラス」も採用し、「アイサイト」を核としたSUBARU独自の予防安全性能を更に向上

SUBARUは、運転支援システム「アイサイト」を大幅進化させます。

新機能として、高速道路の渋滞時を含む全車速域でアクセル・ブレーキ・ステアリング操作を自動制御して、運転負荷を大幅に軽減する「ツーリングアシスト」を搭載します。

この大幅進化した「アイサイト」は、本年夏発表予定の新型「レヴォーグ」、「WRX S4」全車に標準装備します。

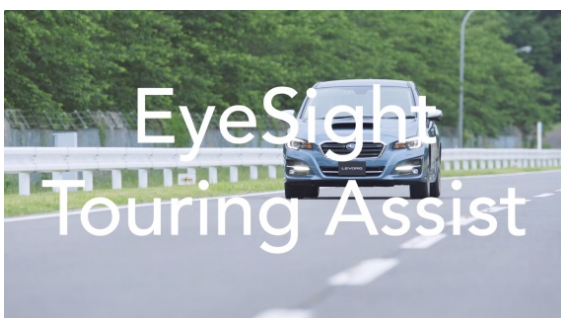
「アイサイト」はSUBARUが2008年に発表*2した、ステレオカメラによる前方状況認識と高度な制御で安全運転を支援する、SUBARU独自のシステムです。

ステレオカメラは常に車両の前方を監視し、人の「目」と同じように距離を測ることが可能。さらにクルマや歩行者、区画線などを識別できるほか、広い視野角と視認距離、カラー画像によるブレーキランプの認識など、高い認識性能を誇ります。そして、「目」から得た情報と走行状況をもとに、“頭脳”にあたるソフトウェアが必要な制御を判断し、状況に合わせてクルマの各ユニットを“手足”のように適切に制御します。また、ステレオカメラのポテンシャルをベースにさまざまなセンサーを組み合わせており、あらゆるシーンでより高度な運転支援を実現しています。

新機能「ツーリングアシスト」は、「アイサイト」の「車線中央維持」の作動領域を従来の「60km/h以上」から「0km/h以上」へと拡大するとともに、「先行車追従操舵」を追加し、「全車速域追従機能付クルーズコントロール」と組み合わせることで、高速道路でのアクセル、ブレーキ、ステアリング操作を自動制御して、ドライバーをアシストします。SUBARU独自のステレオカメラによる区画線と先行車の2つの認識情報を併用することで、リアルワールドの幅広いシーンで安定した動作を実現。運転負荷を大幅に軽減します。

また、新型「レヴォーグ」、「WRX S4」はSUBARU国内仕様初となる「後退時自動ブレーキシステム」の採用や、ドライバーの認識範囲を拡げさらなる安心をプラスする「アイサイトセーフティプラス」を設定*3することで、総合安全性能にさらに磨きをかけた商品に仕上げました。

SUBARUオフィシャルウェブサイトでは、本日より専用サイト(https://www.subaru.jp/eyesight_ta/)で大幅進化したアイサイトのムービーコンテンツを公開します。



- *1:「ツーリングアシスト」は、高速道路(自動車専用道路)で使用していただくシステムです。
- *2:レガシィ B4/レガシィツーリングワゴン/レガシィアウトバックに設定。(2008年5月8日発表)
- *3:メーカー装着オプション

【「アイサイト」の主な機能*4】

・プリクラッシュブレーキ

衝突の危険があるとシステムが判断した場合、ドライバーに注意を喚起。回避操作がない場合はブレーキ制御を行い、自動的に減速または停止します。前方車両との速度差が約 50km/h 以下なら衝突回避、または被害を軽減します*5。

・全車速追従機能付クルーズコントロール

高速道路や自動車専用道路で、0km/h～約 120km/h の広い車速域で先行車に追従走行。高速巡航からノロノロ運転が続く渋滞時まで、アクセルとブレーキ操作のわずらわしさを軽減し、快適で安全なロングドライブを提供します。

・後退時自動ブレーキシステム(SUBARU国内仕様初)

後退時、車体後部に内蔵されたソナーセンサーが障害物を検知。衝突の可能性がある場合は、警報音と警告表示で、段階的に注意を喚起します。回避操作がない場合は自動的にブレーキをかけ、衝突回避または被害を軽減します。

・AT 誤発進&誤後進抑制制御

駐車スペースから出る時などの、シフトレバーやペダルの誤操作による急な飛び出しを抑制。「発進」だけでなく「後進」への対応も実現しています。

・警報&お知らせ機能

自車のふらつき(高速走行時・約 60km/h 以上)や車線逸脱(約 40km/h 以上)を検知した場合、警報音と警告表示でドライバーに注意を促します。また、先行車の発進に気づかず停止状態のままでは、ボイスインフォメーション(アナウンス)と表示でお知らせします。

・車線逸脱抑制

ステレオカメラで走行車線両側の区画線を認識。自動車専用道路などを約 60km/h 以上で走行している場合、車線からはみ出しそうになるとステアリング操作のアシストを行い、車線からの逸脱を抑制。安全運転をアシストします。

・ツーリングアシスト(SUBARU初)

「全車速域追従機能付クルーズコントロール」と「車線中央維持」を組み合わせることで、0km/h～約 120km/h の幅広い車速域で、アクセル、ブレーキ、ステアリング操作を自動制御します。SUBARU独自のステレオカメラによる区画線と先行車の2つの認識情報を併用することで、リアルワールドの幅広いシーンで安定した動作を実現。また従来の高速域だけでなく極低速域でも作動することで、運転負荷の大幅な軽減を実現しました。

<ツーリングアシストの作動イメージ>

0km/h	約120km/h	
渋滞時	混雑時	高速巡航時
<p>車間距離が狭い渋滞時など、区画線が見えない状況でも、 先行車を認識して操舵を支援します。</p> 	<p>区画線が見えにくい混雑時や、カーブなどでも、 区画線と先行車の情報を組み合わせて 安定した制御を行います。</p> 	<p>先行車がない場合でも、 区画線を認識することで 車線内中央付近を維持します。</p> 

*4: 新型「レヴォーグ」、「WRX S4」に搭載される機能。

*5: 前方車両との速度差が約 50km/h(歩行者の場合は約 35km/h)を超える場合は、「アイサイト」の性能限界から衝突を回避することはできません。また、前方車両との速度差が約 50km/h(歩行者の場合は約 35km/h)以下であっても、状況によっては衝突が回避できないことやプリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

【「アイサイトセーフティプラス」の機能*6】

・運転支援

*スバルリヤビュークルディテクション(後側方警戒支援システム)

車体後部に内蔵されたセンサーによって、自車の後側方から接近する車両を検知。システムが衝突の危険性があると判断した場合、ドアミラー鏡面の LED インジケーターや警報音でドライバーに注意を促します。

*ハイビームアシスト

フロントウインドウ内側の単眼カメラが前方の光を検知し、状況に応じてハイビーム/ロービームを自動的に切り替え。より明るく安全な夜間視界を確保します。

・視界拡張

*スマートリヤビューミラー*7(SUBARU初)

リヤゲートガラスの内側に取り付けられたカメラの映像を、ルームミラーに表示。乗員や荷物で後方視界が遮られてしまう時や、夕方や夜間・悪天候などで後方が見えにくくなる場合でも、安全な後方確認をサポートします。

*フロント&サイドビューモニター

フロントグリルおよび助手席側ドアミラーに装着されたカメラの映像を、マルチファンクションディスプレイに表示。死角を低減し、安全運転をアシストします。

*6: 新型「レヴォーグ」、「WRX S4」にメーカー装着オプション

*7: 新型「レヴォーグ」に設定

なお、商品等についてのお問い合わせは、最寄りの販売会社、または SUBARU お客様センター「SUBARU コール」0120-052215 までお願いします。